

MIOTSUKUSHI



2000年3月1日発行

No.75

大阪府青年国際交流機構
会長 松本 仁孝



はるですよ! 何かはじめましょう!

CONTENTS

- 世界船・航空機・東ア船帰国報告
- 中国派遣団受入れ報告
- 近畿青年洋上大学報告
- 全国推進会議・岐阜全国大会報告
- 国際交流フォーラム報告
- Information

世界船報告

山内久代

今まで船旅といえば九州くらいしか行ったことのなかった私が、2ヶ月間も船で海外に行ってきたなんて、今考えても夢のようである。1999年9月9日、色とりどりの紙テープが揺れる中出発した船上で、遠くに見えるお台場を見ながら、これからの生活をうまくやっていると、のんびりかと思ふと不安になったのだった。

世界青年の船は東ア船や他の交流事業と違い、世界17カ国から参加している青年との船上での生活がほとんどとなる。同じメンバーと同じスケジュールでの毎日の生活。それは社会人になってから味わったことのない、まるで学生の頃に戻ったような生活だった。最初に同じキャビン(船室)になったのはスペイン人とタンザニア人。2人とも礼儀正しく、またとてもいい人だったので当初の不安はすくなくなかった。この2人との生活では、お互いの国の文化、習慣、言語などを直接聞くことができ、とても興味深かった。特にタンザニア人はすぐにグループになってしまったり、時間や約束をきっちり守るところなど日本人ととてもよく似ていて親近感をもった。そして実感したのは習慣や肌の色は違っても本質的な部分では同じだということ。私は当初いろんな国の人と生活するのだから当然トラブルが起きるだろうと不安に思っていた。しかしそれは外国人と



共同生活をすると
トラブルは起きる
ものなのだ。

生活するからトラブルが起きるのではなく、たくさんの人と1つの場所で共同生活をするとトラブルは起きるものなのだ。その点では違いを知ったというよりは身近に感じたという感じだった。

また、寄港したセイシェル、南アフリカ、タンザニア、ドバイへは普通はなかなか行かない所で、特に南アフリカでは黒人が居住する地区へ行くことができ、アパルトヘイトが今だに残っている状況を目の当たりにしてショックをうけたり、ドバイでは地元の大学生に大歓迎されたり、なかなか体験できないような貴重な経験であった。

この2ヶ月で得たものはとても大きい。経験や思い出としてだけでなく、世界を身近に感じることができた。きっと一生忘れることのない出来事として自分の中に残るだろう。

航空機報告(チリ)

チリ派遣団 岸田有可子

この夏、航空機派遣で南米のチリに行ってきました。その時に感じたことを述べたいと思います。

チリは南米の中で近年経済状態もよく、町並み、社会秩序、人の性格などが南米の中で一番ヨーロッパ的といわれている国です。私のみた感じでも首都サンチアゴの中心部は「リトルロンドン」といった感じでしたし、特に上流階級の方の生活習慣、考え方などをみていると「他の南米諸国とは違う。私たちはヨーロッパ人」といったような変なプライドをもっているような感じも見受けられました。

チリ社会の中で私が一番気になったことは貧富、階級の差がとてもはっきりしていることでした。裕福な人の家では家事、炊事といった仕事はメイドがやり、みんなとてもおしゃれでひまがあったら買い物にかけ若者は深夜遅くまでホームパーティーで盛り上がる、といった生活習慣がありました。それに対して現地で活動しているNGOと共に貧民街を訪問したのですが、そこは人の土地に勝手に板やブロックなどを運んできてバラックを建てて200軒ぐらいの家族が



住み着いているというところでした。家族といってもほとんどが母子家庭。チリでは宗教(カトリック)の関係で中絶はいかなる理由であれ法律で禁止されています。(貧民街にすむ人はそれ以前に中絶するお金もないのですが)また避妊も広まっていません。そこで16才ぐらいの母と子ども、という母子家庭がその地域ではほとんどでした。その地域では識字率も低く仕事がないために安物の麻薬に走る、といった問題もありました。

でも、そういった地域でも、とても前向きな姿勢もみられました。その地域で活動しているNGOが経営している保育所を訪問したのですが、そこの教育方針は「子どもを育てるのは家庭であり保育所は家庭で子供が親とふれあうための最大限の協力をするところ」というものでした。母子家庭で母親が若いということもありその保育所の子どもたちは親の愛情に飢えているところが見受けられました。そこで保育所は母親と二人でするゲームや勉強のための教材を家庭に貸し出したり、母親対象の育児教育や識字教室を開くなど、家庭で母子の触れ合う機会を長くするための工夫を多く取り入れていました。

このように、多くの社会を見ることで遠く離れた社会のことについても考えるようになり、無関係のように思っていた世界のことについても興味を持てるようになりました。それと共に多くをみて比較することにより私のまわりの身近な社会についても客観的にみて考えることが少しはできるようになった気がします。でもそれ以上に今回の派遣で私にとって一番の収穫は多くの意見を交換し、今後ずっとつきあっていけるであろう友人に出会えたことです。家族同然に暖かく迎えてくれたホストファミリーのみんな、そして何よりも一緒に行ったチリ派遣団の10人のメンバー……。みんなと出会い、地球の裏側でみんなと共に考え、共に笑ったこと私の一生の宝物です。

こんな素晴らしい機会を与えてくださった総務庁の方々、大阪府の方々、IYEOの皆様、そして私を支えてくださった多くの人々に心から感謝いたします。ありがとうございました。



無関係のように思っていた
世界のことについても
興味を持てるようになった。

東ア船報告1「想い」

名越真子

「海をもう一度見るとき、海は貴女を見るだろうか。」
どきどきとした。果たして「今」海は私を見てくれているのだろうか。
そして私は海を見ているのだろうか。そんな気持ちに苛まれた。

ある朝、私はいつものように朝食を摂りにダイニングに行こうと2階へ降りると、ある一通の手紙を渡された。そしてこの言葉に出会った。それから私はたった一人で甲板に出て海を見ることが多くなった。

大切なのは
自分が何を選び、
信じていくか。



東ア船報告2

田島 潤 sseayp 99

セアアップは平和でした。今更ながらデータを見たりしてびっくりするのが、日本と他のASEAN諸国にあれだけ年間所得等に差があっても、何の壁も無く意見交換することができたことです。結局、国々のものは経済的(軍事的)な物差しで力関係が決まってきた摩擦が起きるけど、人々には国力の差なんか関係ないことがあたりまえながら良くわかりました。(逆に、経済力で力加減を決めてしまう国同士の関係はあまりにも幼稚で悲しいものかとも思います。)ただ、各国が真に平等で平和な国際社会を作ろうとするならば、自国に対する誇大な愛国心(優越感や、劣等感から起こる過度のプライド)は単に持つべきでないですよ。僕達は、この事業で国家事業であると同時に平和創造事業という、非常にむずかしいバランスを必要とすることに頭をつつこんだことになるんやけども、まあそんなこと考えない方がうまくいったりすることが証明されたとお氣楽に思えば、案外いいのかもしれないです。でも、セアアップって、なぜかみんな仲良くならなければいけないような特殊な雰囲気(パラダイム)があって、これが船の中で崩れなかったから平和状態が保てたんやと思います。これって、特異なことかな?いくらインドネシア人が「日本人は肌が白い」と言っても、結局同じアジア人であって、よく似た価値観を持っている強みがある。つまり、この一つのパラダイムを将来アジア全体で打ち出せば、一致協力して今後の世界情勢も変えられるかもしれないという壮大なポテンシャルが

「青い空、青い海、いつ見ても美しいものです。海の向こうには何も無いではなく、海の向こうには何かがあるという世界観、海によって隔たれているのではなく、海によって繋がっているという実感を幾つになっても感じます。眠りが夢を運ぶように、海は人々に新しい希望をもたらします。貴女の一度しかない人生です。今しかやれない事、そして長い人生の先を見ながら泳ぎきるのも貴女です。幸せは極めて刹那的で刺激的です。」

渡された封筒の中にはもう一つ、手紙の他に「もう一度必ずこの海に帰って来れるように」そして「必ず幸せになれる」という二つのお守りが付けられた首飾りが入っていた。お礼を伝えに行くと、「Perfect life!になれるよ。」とボンと背中を押してくれた。

海を見ていると地球は丸いということがよく分かる。そして船の航跡は今までの様々なことを彷彿させ、洗い流してくれる。これが正しいなんてものは何も無いけれど、大切なのは自分が何を選び、信じていくか。そして感じたことを忘れず、育てていくことだと海は教えてくれた。

信じる神が違って、信仰心に差があっても、お互いを認め合い、尊重し合うことで、「We are best friends, one family」と言える仲間になれる。私達は海によって結ばれているのだから。

そして私は日本人。日本人の私だから想うこと、気付くことをもっと敏感に感じ取り、伝えて行きたい。それぞれの国の文化や習慣が違うのは当然のことであり、それを理解し合うことは、お互いの妥協点を探り当てることは異なる。文化や習慣までパソコンや車と同じようにグローバルスタンダード化されてしまっただけの面白味もなくなってしまふ。私は地球人。しかしそれぞれの国があり、文化がある。何が幸せかなんて人それぞれ違うし、それでいい。お互いの幸せを侵害しなければ。

海や出会った仲間達は私に勇気をくれた。感じたことを伝えていく勇気。海と見つめ合える心を持ち続け、いつか想いを全うし、私は海へ再び帰る。

存在していることに気づいたんですね。うん。これは使える。

僕は、この事業を(事務的には参加国の多さがちょっとネックとしても)まだ続けて欲しいと思ってます。新聞で読んでも実感できない近くて遠いASEAN諸国と日本は、やっぱりまだまだお互いがわかってないからです。今回の事業期間が終わってから約1ヶ月経ちますが、emailのおかげでかなり活発なやり取りが出来ている状況からも、今後の参加青年の繋がりはこれまでの参加青年以上に発展すると確信できます。単なる仲良しグループに終わることの無い関係を作れるだけの人物が参加していたと思ってます。

最後に、お世話になった全ての人、仲間にお礼をしたいと思います。おおきに。

お氣楽に思っただけ、
案外いいのかも
しれないです。



中国派遣団受け入れ 総括

平成11年度日本・中国青年親善交流事業 中国青年派遣団・大阪府 受け入れについて

日時：11月19日(金)～22日(月)

平成11年度日韓親善交流参加 及川ひろ絵

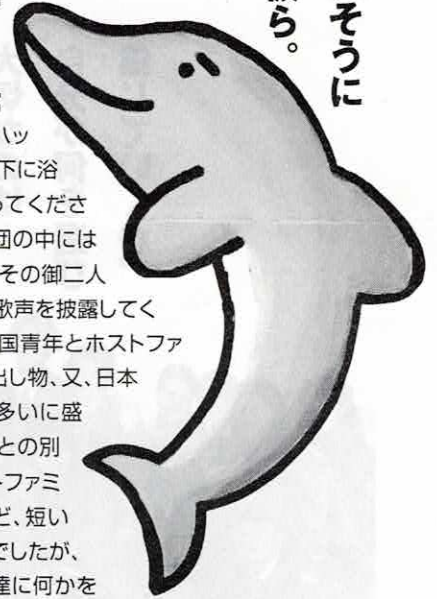
平成11年度日韓親善交流に参加させていただいたばかりの新米の私にとって、この受け入れが大阪IYEOでの最初の事後活動でした。どんな方々がいらっしゃるのだろう、中国語ができないけれどもうまくコミュニケーションすることができるか、等々いろいろと思いが交錯する中、大阪府滞在の最初の行事—大阪府庁を表敬訪問するというので、府庁前で初めて中国青年団の方々とお会いしました。韓国青年団に比べると、年輩の方々が多く(失礼)、有識者の方々ばかりなのだろうということが雰囲気からよみとれました。後で分かったことなのですが、彼らは会社の社長・学校長等とかなり地位の高い方々ばかりだということでした。そんなハイステイタスの方々とうまく交流できるのだろうか、一抹の不安が過りましたが、プログラムを経るごとに彼らの人懐っこさ、優しさに触れることができました。大阪府庁の表敬訪問では、「知事公館」で大阪府の概略から始まり文化に至るまで、大阪府在住の私でも知らないことばかりで発見することが多い貴重なお話を聞かせていただきました。その後、中華料理のバイキングの昼食を取った後(本場中国から来られた彼らのお口にあったことを願います)いよいよお待ちかねの「海遊館」へ向かいました。

「海遊館」はご存知の通り、大阪府名所の水族館です。ここでは大阪IYEOのメンバーたちが自然に何グループかに分かれ、中国青

年団も何グループかに分かれ、共に話しながら見学することができました。ジンベイザメやラッコ、イルカを珍しそうに眺めて喜ぶ彼らの姿を見ていると、こちらまで楽しくなった一時でした。その後、ホテルに向かい2泊3日で行われたホームステイのホストファミリーと中国青年の引き合わせを行いました。たった数時間程、彼らと共にいただけですが、それぞれホストファミリーといい交流をし、大阪を満喫していただきたいと願い帰途につきました。

別れの日があっという間にやってきます。2日後、ホテル・ニューオータニでホストファミリーの方々にもご参加いただき、中国青年達とお別れパーティが催されました。中国青年団の方々、知事公館で大阪府より贈呈されたハッピに身を包み、女性はその下に浴衣を着て、全員で歌を歌っていただきました。また、中国青年団の中には2人も歌手がいり、その御二人も声量のある、素晴らしい歌声を披露してくださいました。その他、中国青年とホストファミリーの方々との合同の出し物、又、日本側からの出し物等で会はずり上がりました。中国青年との別れを惜しんで涙するホストファミリーの方々がおられるなど、短い中国青年団の大阪府滞在でしたが、確かに彼らとの交流は私達に何かを残してくれました。

イルカを珍しそうに眺めて喜ぶ彼ら。



中国ホームステイ受け入れ感想

中国人ホームステイを受け入れて

三宅仁美

去る11月19～20日にかけて、初めてホームステイの受け入れを体験しました。これまで自分がお世話になることは何度かあっても、お世話する側になった経験はなかったので、いざとなると思案することが多々ありました。これまで度々個人的に中国へは足を運び、自分なりの中国人観のようなものがあつたのですが、やはり人間10人いれば10通りの考え方があるように、これまで会った中国の方とはまた感じの違う進歩的なタイプの方でした。我が家にやって来たのは、中国で有名な人民日報という新聞社でバリバリ働いている既婚の41歳の女性・ティエンさんでした。

正直言って、私以外、家族は外国の方と接することがこれまでなかったものですから、不安なこともたくさんありました。例えば私は

熟知していますが、中国の方独特の話し方や食事の際の習慣、物の考え方などetc…それに加え、前もって送られてきた滞在予定の方のプロフィールに記載されていた、40歳と言う年齢を見た瞬間、私の母は凍り付いてしまいました。勝手ながらホームステイ=若年層もしくは娘と同年代の人というイメージが自分の中でできていたようで、どのように振る舞ったらよいか困惑していた様でした。

また、私の中でも、これまで知り合いになったことのある中国の40歳代の女性の方々は、すこぶる元気でパワー全開という人が多かった為、両親が何と思うか、中国への印象が悪くはならないだろうか…といろいろあらぬ危惧を抱いていました。

しかし、そんな心配はティエンさんに会った瞬間に無用だったと気付きました。写真のイメージとは全く違ふきゃしゃでかわいらしい、非常に探求心旺盛で明朗な女性でした。私の家族も同じ感想を抱いたようで、心配していたことは、一気に吹き飛んでしまったようでした。3日間と言っても正味2日しかありませんでしたが、有意義な2日間を送ることが出来ました。一緒に最後のパーティで歌う歌を日本語で練習したり、日本の生活習慣について話したり(もちろん筆談ONLYですが)浴衣を着せてあげたり、ゆっくり過ごしたおかげで始めは非常に緊張していた彼女も帰る頃にはすっかり打ち解けていました。

今回初めてホームステイの受け入れを経験しましたが、得たものは非常に大きかったと思います。もちろん貴重な友人が出来たのを始め、一人の中国人女性を通じて家族にも、文化・習慣の違う人を受け入れるということを理解してもらえました。日中友好とよく謳われますが、国と国よりも個人対個人のとりもつ仲が、最終的には真の友好につながるのだと改めて感じた3日間でした。



帰る頃にはすっかり打ち解けていました。

洋上大学報告

洋上大学に参加して

木下晶恵

昨年8月、13日間の洋上大学に、リーダーという役割で参加して参りました。ご存知の方はご存知だと思うのですが、この洋上大学という事業、近畿の2府7県が順に主催県となり、お隣中国へ青年交流の船を出すもので、参加者は500人近くに及び(?)15の班をもってそれぞれに行動していきます。リーダーはその各班につき事務局と青年の方々の橋渡し役(板ばさみ、とも言う?)のようなもの。

なので、班員さんによって、リーダーによって、それぞれの班の性格は随分違ってきます。はじめは、なんて責任重大なことだろう!と小さな悩みを悩ませていたのですが、そんなわたしの巡り合った班は、なんとも穏やかな思いやりにあふれる班でした。わたしが、こちらの事業で我インドネシア団に出会えたように、こちらでも行く先々でたくさんのいい出会いに恵まれました。航空機派遣では、少人数でわかってなかった人の和について、班員から、ついこの間まで、先生をなされていた班付スタッフさんから、たくさんのことを教えていただきました。

そして、リーダー仲間、スタッフさん、一人一人様々な経験を持ち、とても個性に富んだ集まりです。(そう、I.Y.E.O.とはまた少し違う人たちです。)



ただ、国際交流の視点から見たり、あまりにも学校っぽい体制、O.Bさん方の過剰な結束の固さは、再考の余地、大有り!(けど、それは事務局側の事)という感もありますが、班員一人一人の小さいけれども、確実な、開花や、成長を、近くで共感できたこと、そして私自身もリーダーという役割に学んだことは、私にとって、意味のあることです。この出会いに、乗っかってよかったと(そう、はじめはこの事業に乗りたくなかったのです。わからないことだらけで。)けど、わからないことは、時間も解決の手助けをしてくれます。次、お声のかかった方は、とりあえずTRY!です。

全国推進会議・岐阜全国大会報告

松本仁孝

昨年末、岐阜市長良川スポーツプラザとルネッサンスリゾート岐阜にて、日本青年国際交流機構第30回全国推進会議・岐阜全国大会が開催されました。

議事内容としては、平成11年度上半期活動・会計報告、下半期活動計画の報告がIYEO本部・各都道府県からありました。また青少年国際交流を考える集い(ブロック大会)開催県からの報告や全国大会についての報告がありました。席上、次年度の全国大会は富山県で11月18日19日に開催されますし、2001年は山口県で博覧会が開かれるのに合わせ8月に船上での開催を予定しているとのことでした。

2日目の議事として、IYEO活動方針、事務局長研修、SSEAP総会等の報告があり、次年度総務庁青年国際交流事業国内プログラム受入れ協力要請もありました。(ちなみに大阪府は12年度受入れアンケートに「アジア太平洋青年招聘」を第1希望としました。)

午前終了の推進会議の後、場所をルネッサンスリゾートに移して全国大会が開かれ、大阪からの7名を含めて約200名の参加がありました。

第一部は、岐阜女子大学教授・チベット文化研究所長のペマ・ギャルボ先生より「異文化コミュニケーション」と題したご講演をいただきました。先生は、ご存知の方も多いと思いますが、チベットで生まれ、8才の時に来日、日本の中学・高校・亜細亜大学を卒業後、モンゴル国立大学で政治学博士号を取得、温かいお人柄とは似合わない鋭い指摘をされる国際情報コメンテーターとしてご活躍です。

第二部は、総務庁事業参加者による「フォーラムディスカッション」、第三部では、今回初めて岐阜大会のテーマソングができ、皆で斉唱。今後は歌詞の開催場所の地名を変更して毎回使用する予定(?)

懇親会は、全国の会長が持ち寄った地酒・銘菓もいただける楽しいパーティで最後には郡上八幡踊りで締めくくりました。

翌日は、ホテル横の長良川堤広場で閉会式をし、来年の富山大会での再開を誓い合った後、オプションで用意された世界遺産の「白川郷」・岐阜城と「信長」めぐり、そして帰宅の3班に分かれて無事全国大会は終了しました。

国際交流フォーラム報告 青少年国際交流フォーラム

実行委員 土戸千晶

去る1月22日(土)に森之宮青少年会館プラネット・ステーションにて大阪府とインコミによる「青少年国際交流フォーラム」が開催されました。総勢約140名が参加し、会場が満席となりました。プログラムは二部構成でFM COCOCOのDJクリス氏によるトークサロン、帰国報告会、情報交換会の順に行われました。

一部では、クリス氏自身の生い立ちに始まり、番組の一部を紹介されたり、日本の身近なニュースや社会に対する見解等を話されました。アメリカ人の父親と日本人の母親を持つクリスさんはニューヨークで生まれ育ち、日本への憧れを抱いていた末、大学卒業後、英会話講師として来日しました。震災をきっかけとして始まったFM COCOCOのDJとなり、クリスさんは現在、水曜18時から(関西のさまざまな情報を提供する番組)と日曜23時から(JAZZ NIGHT)の二つの番組を担当されています。

帰国報告会では大阪府が行なう4つの事業の報告会でした。協力隊、近畿青年洋上大学、環太平洋事業、総務庁事業の各事業の帰国したばかりの青年達のホットな報告を聞くことができました。IYEOからは西真紀子さん(フィンランド派遣)、山内久代さん(世界船)、諏訪晃一さんと及川ひろ絵さん(日韓)の4名が報告されました。OHPによる写真やビデオなどを見ていて、OB、OGは懐かしく思いだしたことでしょう。一般参加の皆さんにも刺激的だったと思います。

二部の情報交換会では、IYEOの、そしてインコミの縦と横のつながりを深める良いチャンスだったと思います。

9月から始まった実行委員会も2月の反省会をもって終了します。私自身初めてこのフォーラムに参加したのですが、委員会等を通して府庁をはじめとする様々な人と知り合うことができました。

I n f o r m a t i o n

急募!! 手伝ってくれる人!
ワンワールドフェスティバル 2000

2月26日(土)・27日(日) 国際交流センター(天王寺)

恒例のワンワールドフェスティバルが今年も開催。IYEOではパネル展示とちぢみを販売する予定です。今年は2日間開催のため、人手が足りません。ちょっとしかできないけど・・・OKです。顔だけでも出してください。

総務庁事業 帰国報告会&事業説明会

3月12日(日)14:00~ 府立青少年会館(森ノ宮)

今年度の海外派遣参加者の帰国報告会と来年度の事業説明会を行います。(詳細は折込チラシ参照)ぜひお友達をお誘いあわせの上、ご来場ください。

クッキングコミュニケーション

3月18日(土)13:00~17:00 クレオ大阪東(京橋)

毎年アジアを中心に在日外国人の方々をお招きして母国の料理を皆で紹介しあい、お互いの文化交流を会話を交えながら楽しめます。会費は¥2000です。定員に限りがありますので、お早めにお申し込みください。お申し込み・お問い合わせは岡本まで(右参照)

大阪国際青年交流機構 総会のお知らせ

桜前線が大阪を通過するころ、例年通り、総会を開催します。今まで、IYEOの行事に参加したことがない皆さんも、ぜひ、一度ぶらっと散歩がてら参加してみませんか?今年は場所を変えて、桜ノ宮「OAP」のレストランでランチバイキングを楽しみながらのざっくばらんな爽快!いえ総会です。みなさんにお会いできるのを楽しみにしています!!

●日時 4月9日(日)11時より

●場所 OAP(帝国ホテル横)38F「Luxun(ルーシュン)」

06-6358-8611 JR「桜ノ宮」駅下車 徒歩5分

●会費 1500円

お問い合わせは 松本携帯/090-8147-6822

あなたのE-mailをアドレスを教えてください!

昨今のパソコン普及に伴い、大阪IYEOでもE-mailにより情報発信をしております。IYEO活動のみならず、耳寄りな情報もいちちはやくあなたにお伝えします。E-mailをお持ちの方は、ぜひお知らせください。

問い合わせ先 岡本/06-6975-0801

E-mail: PDE02564@nifty.ne.jp

まってる!

青春後記

全国初の女性知事が大阪府からということで、大阪もやっと「どや!」というところが見せられたかな?という気がします。これからが女性の腕の見せ所?ということで、私はちょっと新しい知事さんに期待しているのですが、一人ががんばったところで周りに良き理解者がいないとちょっとしたことでもなかなかうまくいかないもの。頭の堅い人たちに負けずに女性パワーを発揮してほしいものです。大阪が、外国人にも、障害者にも、お年寄りにも、子どもにも全ての人にとって住みやすい街になるように、知事さんだけにまかせておかないで、私たちも、なんかやりましょ。そして、自分の周りにがんばっている人がいたら、ちょっと力を貸してあげてみてはどうでしょうか。 OH! NO!